

福島原発事故から15年



子ども甲状腺がんの実態 ～今、福島の子供たちに何が起きているか～

日時: **10月3日(土)** (11時～16時)

場所: **筑西市アルテリオ I 階集会室** (筑西市丙372 0296-23-1616)



*会場は11:00から展示を行っています。

展示内容 ・茨城保養の13年記録・子供甲状腺がん裁判の資料
・いばらき原発県民投票の会資料

*映画・講演会は**12:30開場 13:00開会**

第一部:ドキュメンタリー映画上映 13:00～13:30

波打ち際に足跡を残す(子ども甲状腺がん裁判の記録)

第二部:OurPlanet・tv 代表 **白石 草さん講演**13:45～15:30

子供甲状腺がんの実態

～今福島の子供たちに何が起きているか～

報告:茨城保養の会・筑西市の環境を考える会 15:30～16:00

主催:福島の子供たちとつながる茨城保養の会・筑西市の環境を考える会

協賛:いばらき原発県民投票の会 県西協力者会議・つくば市民ネットワーク

笑顔あふれるふる里益子を創る会・青空市の会(益子町)

環境学習同好会・牛久県民投票の会・ちょっと待った再稼働笠間市民の会

後援:筑西市・茨城新聞社

資料代カン
パをお願い
します

問い合わせ先:宮田(0296-25-0699)鈴木(0296-76-1565)小林(070-7565-0059)



白石 草 しらいし・はじめ(Our Planet-TV 代表)

早稲田大学卒業。テレビ局勤務などを経て、2001年に独立。同年10月に非営利のインターネット放送局「OurPlanet-TV」を設立。2012年に放送ウーマン賞、JCJ賞、やよりジャーナリスト賞特別賞、2014年に科学ジャーナリスト大賞を受賞。著書に『ビデオカメラでいこう～ゼロからはじめるドキュメンタリー制作』(七つ森書館)、『メディアをつくる～「小さな声」を伝えるために』『ルポ・チェルノブイリ28年目の子どもたち』(岩波書店)など。

◆ Our Planet-TV ウェブサイト：www.ourplanet-tv.org

本当に伝えたいことを伝えるために 続けてきた被ばく取材と報道

東日本大震災から15年。福島第一原発事故は、被ばくした住民や土地家屋をはじめ、断ち切られた地域のつながりや避難に関わるあらゆる問題、汚染水・汚染土の処理、食料への影響、廃炉への道筋など、未だ膨大な課題を抱えたまま私たちの生活と並行して続いています。福島県は『県民健康調査』を実施して、県民の健康状態を把握し長期的に見守るとしてはいますが、基本的には事故後の健康被害に対して「放射線の影響は考えにくい」という見解です。では、調査結果からわかる実態とはどうなのか？ 充分な対応が取れていると言えるのか？ 今回の講演では、福島第一原発事故後の子どもたちをめぐる、市民から行政までさまざまな動きを取材し、ネットを通じて報道してきた白石草さんを講師に迎え、多発する小児甲状腺がんのかげで何が起きているのかをうかがいます。

ドキュメンタリー 波打ち際に足跡を残す

取材・構成 白石草 制作・配給 Ourplanet-TV(2026年30分ブルーレイ)

見えているものだけが、被害じゃない 中学生で甲状腺がんの手術を受けたこはく
あの事故は何だったのか 自分の傷にいま向き合う

黒潮と親潮が交わる福島県の浜通りで育ったこはくは、震災当時6歳。激しい揺れと車で逃げた記憶はあるものの、ほとんど覚えていない。友達にさよならも言えないまま会津に避難した。その彼女に甲状腺がんが見つかったのは、中学生のとき。福島県が実施する甲状腺検査で発覚した。

福島県では今、この検査によって400人もの子供たちが甲状腺がんと診断されている。しかし子供の甲状腺がんが増えているという事実そのものが風評とされ、社会的なバッシングにさらされる中、当事者は名前や顔をだすことはおろか、存在さえ隠して生きている。

そんな空気を変えたい。甲状腺がん裁判の最年少であるこはくが今、カメラの前に立ち、自らの言葉を語り始めた。

